

土壌医の会通信 23

2026年8月25日

目次

1. 優良土づくり推進活動表彰

2. 今年度の検定ポスター完成

3. 土壌医活躍中!

沖縄土壌医の会 宮丸 直子さん

4. 事業体土壌医の会紹介

豊田肥料株式会社

5. 新着!合格者の声

6. 農家・生産者の皆さんの受験が増えています!

7. 事業体土壌医の会アンケート結果を活用しました!

1. 「優良土づくり推進活動表彰」について

「優良土づくり推進活動表彰」は、土壌診断に基づく作物生育改善の取組や土づくりの普及活動を推進していくため優れた業績をあげた土壌医の会の正会員及び資格登録者、優れた活動成果をあげた土壌医の会に対して農林水産省農産局長賞、土壌協会会長賞、全国協議会会長賞の各賞の授与と表彰を行う事業です。

毎年、(一財)日本土壌協会と土壌医の会全国協議会の共催によって実施されており、受賞者には賞状と記念品が授与されるほか、応募者全員にCPDポイントが付与されます。(本年度の募集は8月24日で終了しています)

表彰式と受賞者によるスライド発表が行われる「土壌医の会全国協議会 第10回全国交流大会」は、下記の日程と場所で開催予定です。日程が近づきましたら、土壌医ネットワーク上に参加案内を掲示いたします。近在の方は来場を、遠方の方もweb視聴が可能ですので、是非参加のエントリーをお願いします。(参加費無料、CPDポイントが付与されます)

■土壌医の会全国協議会 第10回全国交流大会

日程:10月9日(金)午後

場所:日比谷図書館文化館

(東京都千代田区日比谷公園1-4)



前年度の第9回全国交流大会の様子と発表スライドの抜粋

2. 2026年度の土壌医検定のポスター完成!

今年も素敵なポスターができあがりました。写真は A4チラシ版で、左下隅に過去問題を載せています。

土壌医®

チャレンジ！土づくりのプロになろう 土壌医検定

1級
2級
3級

検定試験日
2027年

2月14日

日



東京都立園芸高等学校のみなさん

土壌医検定

検索

<https://doiken.or.jp/>

詳細は土壌医検定のWebサイトをご覧ください

3級の問題に挑戦してみよう！（正解は裏面）

問 暑水の悪い水質を改善するための適切な方法はどれか。その中から一つ選ばせさい。

- ① ペントナイトやゼオライトの施用
- ② サブソイルやライツラの施工
- ③ レンガやマリーゴールドの栽培



主 催：一般財団法人日本土壌協会

後 援：農林水産省

全国農業青年協会の会合 全国農業信用組合連合会 全国農業大学校協会
全国農業労働者の会合 日本農業信用保証員会 日本農業技術者団体の会合
日本生活協同組合連合会 全国支店長協議会 日本土壌科学会
日本農業法人協会 全国改良資材協議会 土壌の全国協議会

土壌医®

チャレンジ！土づくりのプロになろう 土壌医検定

検定試験日
2027年
2月14日
(日)

1級

2級

3級

土壌医検定 検索

<https://doiken.or.jp/>

詳細は土壌医検定のWebサイトをご覧ください

札幌土壌の会のみなさん

3級問題の正解と解説（問題は裏面）

正解①は
 虫について、ベントナイトは、菌糸固定効果があり、芽生や菌糸活動の促進に働かれます。ゼライトは、養分の供給に関与します。
 ②については、土壌中の微生物による土壌呼吸が抑制されるため、メーローブでは、土壌のセンチュウの繁殖に必要となる有機物の供給に阻害されます。

主 催：一般財団法人日本土壌協会

後 援：農林水産省

全国農業技術普及センター会 全国農業技術普及協議会 全国農業大学校協議会
 全国農業青年技術大会 日本農業改良推進委員会 日本農業改良推進協議会
 日本米穀協同組合連合会 全国肥料株式会社 日本土壌科学会
 日本農業法人協会 全国土壌改良員研究会 土壌研の会全国連絡会

[illegible]

三つ折リーフレット→

写真については東京都立園芸高等学校、札幌土壤医の会の皆さんにご協力いただきました。

ポスターやパンフレットをご希望の方は、e-mail@soil-doctor.net までご連絡ください。

PRして土壤医検定を盛り上げましょう!

3. 土壌医活躍中！ ～沖縄土壌医の会の宮丸直子さん～

■自己紹介

沖縄土壌医の会の宮丸と申します。以前は沖縄県農業研究センターに研究員として勤務し、土壌調査や土づくりに関する研究に携わってきました。現在は、南西諸島の農耕地を対象に、土壌改良や土づくりに関する試験研究・技術開発、土壌診断などを行う沖縄農業技術開発株式会社の技術開発部に所属しています。土壌医として農業現場が抱えるさまざまな課題に向き合いながら、土壌調査や土壌診断、土壌改良を通じて、より良い土づくりを支援しています。



土壌断面調査

■沖縄土壌医の会

沖縄土壌医の会は、2014年11月に全国で最も早く設立された地域土壌医の会で、今年で設立12年目を迎えます。亜熱帯地域に位置する沖縄の土壌は、気候や地質などの影響により、他地域とは大きく異なる特徴を持っており、一般的な教科書や既存の知見だけでは十分に対応できないことも少なくありません。こうした沖縄特有の土壌について学び、理解を深めることを目的として、以前から有志による勉強会として「沖縄土壌環境研究会」が活動していました。その活動を礎として「沖縄土壌医の会」が設立され、現在に至っています。

■サトウキビ畑の土づくり



沖縄の基幹作物であるサトウキビと筆者

沖縄の基幹作物はサトウキビで、県内の農耕地のおよそ半分をサトウキビ畑が占めています。私は研究員時代から一貫して、サトウキビ畑の土壌改良や土づくりに携わってきました。

県内の代表的な土壌である国頭マージ、島尻マージ、大東マージ、ジャーガルのそれぞれに特有の課題があり、日々悩みは尽きません。一方で、サトウキビの生育は土壌の状態に大きく左右されるため、土壌改良の効果が目に見えて現れることがあります。

サトウキビ畑の土づくりは難しい半面、とてもやりがいのある仕事です。



沖縄の代表的な土壌:国頭マージ

■行政(農業土木分野)との連携

土地改良事業では、圃場の区画整理や畑地かんがい施設の整備だけでなく、土層改良も行われます。土層改良とは、作土を含む農地の土層を作物の生育や農作業に適した状態へ改善していくものです。私は土壌医として、土層改良の計画段階から土壌調査に携わり、適切な改良方法を提案しています。農業土木分野の技術者とは、専門分野や用いる用語、考え方が異なるため、時には議論になることもあります。しかし、それぞれの専門性を持ち寄り、互いに意見を交わしながら協力することで、より良い農地づくりにつながっていきます。今後、地域の農業が抱える課題が複雑化する中で、農業土木をはじめとする他分野の技術者と土壌医との連携、そして行政の事業への土壌医の関わりは、これまで以上に重要になると考えています。こうした連携がさらに広がり、土壌医がさまざまな分野で専門性を発揮できる機会が増えていくことを期待しています。



土壌改良:リッパーによる心土破碎

宮丸さんにご寄稿いただきました。ありがとうございました！

4. 事業体土壌医の会紹介 ～豊田肥料株式会社さん～

■豊田肥料株式会社の紹介

『明日のため 今日、心と技術を尽くし、皆様のもとへ』

我が社は文久3年(1863年)の創業以来、地域の皆様とのつながりを宝とし、多くのお客様に支えられて事業を展開してまいりました。ホームページ:<https://toyodahiryō.jp>

「大切に作る・楽しさを生む・真面目に誠実にプロ意識をもって」が、私たち豊田肥料社員の合言葉です。

本社は静岡県袋井市に所在しているため茶・メロンの肥料が多いのですが水稻・蔬菜・果樹・芝に関しても県内に限らず広範囲にお客様を持っており、肥料・農業にとどまらず、農業資材まで幅広く販売しております。



肥料(豊富な銘柄のほんの一例)



土壌改良資材(多彩なラインナップの一例)

我が社独自の「コンサルティング営業」は、昭和29年にはその体制を確立し、時とともに進化を遂げ、今や地域のお客様からの大きな信頼と支援を頂くまでになりました。研究と営農指導を主な業務とする豊田植物科学技術研究所では、各種作物圃場の土壌分析、土壌診断や専門スタッフが各作物の生産現場に向かう現地相談、座談会、説明会、茶園では管理に重要な整枝などの技術相談など、施肥や防除、土壌改良、栽培管理等の農産物生産の総合的なご提案をしております。



水田での営農指導の様子



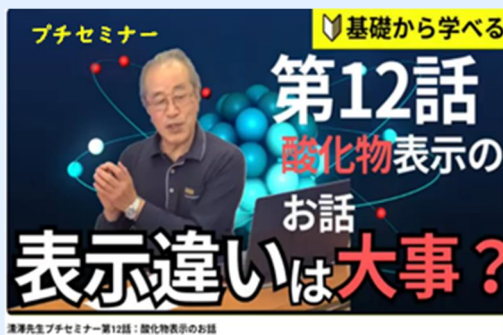
茶園での営農指導の様子

■豊田土壌医の会

豊田土壌医の会は 2020 年 7 月に発足し、豊田肥料(株)と豊田有機(株)の営業と技術スタッフの殆どが所属する会として、社員のスキルアップを最大の目的として活動をしてきました。資格取得者は土壌医 2 名、土づくりマスター 3 名ですが、準会員 30 名も研鑽を続けています。

発足当時から有資格者が増えないのが悩みの一つですが、施肥技術指導員 38 名、JGAP 上級指導員 3 名、JGAP 指導員 6 名(指導員補 13 名)、農業管理指導士 5 名、毒物・劇物取扱者(一般・農業) 12 名、農業安全コンサルタント 4 名、造園施工管理技術検定 1 級 2 名、農産物検査員(国内産) 12 名など幅広い資格者の集団ですから会社全体としてはお客様に寄り添うコンサルタントができていていると思います。

社内には既に営農研究会などの研鑽の機会があるため、土壌医の会の主たる活動は、社内研修会(土壌・肥料・病害対策・栽培・統計学など)で年間 6 回程度開催しています。座学のみならず、RQ フレックスや糖度計を用いた栄養診断の実習なども行っています。



また、大所帯で全員が参加することも中々儘ならないため 10~20 分程度の動画を作成して『プチセミナー』として社内に配信するなど、研修方法の工夫も行っています。

土壤医の会主催の勉強会を通じて私たちは、自社オリジナルの新製品を開発しました。

弊社では長年『微生物資材』や『堆肥』も製造販売してきており、沢山の生産者に使って頂いておりますが、現地相談会では農家から、液体で散布できる形態のものがないか、表面散布で効果を発揮できる資材がないか等の相談がありました。このことが土壤医の会主催の勉強会を通じて社内にフィードバックされ、豊田植物科学技術研究所の研究課題として取り上げることとなりました。独自に選抜して種々の性質を研究した微生物菌株を活用してできた新製品は、既存の資材より安価であるとか、常温で長期間保存できるなどの工夫を凝らしたもので、土壌・圃場の微生物環境に改善が期待出来るとして好評です。腐植酸資材『ゆたかフミン』も安全で安心して使えるコストを重視した資材に仕上げました。

今後も会員一同のスキルアップを図りながら、地域、農家の課題解決に貢献するコンサルタント営業を目指していきます。

豊田肥料さんにご寄稿いただきました。ありがとうございました！

5. 新着！土壤医検定合格者の声

2025年度の試験が終わり、合格の喜びの声が届いています。新しく届いた合格者のコメントを抜粋して紹介します。

全文はこちらからお読みください。 <https://soil-doctor.net/voice>



1級合格

生産者 Mさん

札幌土壤医の会の活動に積極的に貢献し、これまで学んだ知識や経験を地域へ還元していきたい。



1級合格

ヤンマーアグリジャパン(株) Hさん

土壌診断に基づいた論理的な提案を行い、お客様の課題に対して再現性のある解決策を提案できる人材を目指す。



1級合格

(株)クボタ Mさん

営農指導や技術提案を行う際にも、土壤医検定で学んだ知識が大きな支えとなっている。



3級合格

開隆堂出版(株) Aさん

2級という、土づくりの専門家としてのステップアップも目標。これからも勉強と実践を通して、土づくりの普及に貢献していきたい。



3級合格

(株)国際農業社 農村ニュース Kさん

新聞記者として、誤った表現や認識に基づいた情報発信を行うことのないよう、土壌に関する正確な知識を身につけ、取材や記事執筆に生かしていきたい



3級合格

長野県南安曇農業高等学校 Tさん

検定を受けて学んだことを無駄にしないよう、これから土壌や農業ひいては社会に目を向けて探求していくようにしたい。

土壤医検定で得た知識を生かして活躍したい、という皆さんの熱い思いが伝わってきます。

6. 農家・生産者の皆さんの受験が増えています！

土壌医の会通信の前号、22号で詳しくお知らせしましたが、ここ2か年の傾向として「JAグループ」所属の方や「農業者・農業法人」からの受験申込者数が増えています。

今回は、このうち農業者・農業法人関係者の方が受験を通して得た感想を合格者の声から紹介します。

- ・土壌医の勉強と実践を続けた結果、経営に大きな変化が現れた。地域トップクラスの収量となったほか、経費面でも改善が進んだ。
- ・参考書を読んでもコストや効率も考えた経営的な要素も含んだ内容であり、農家として非常に参考になった。
- ・学んだ知識が農業経営へ直接反映され、肥料コストの削減や収量の安定化といった成果につながった。
- ・(生産者の野菜を卸しとして扱う立場として) 土壌について知識を増やし、生産者により深い内容を話せるようになりたいという思いで受験した。
- ・受験勉強を通じて肥料や土壌改良材について正しく理解していなかったことに気づいた。

受験勉強自体が経営へのメリットに繋がったとの声も多くあがっていました。

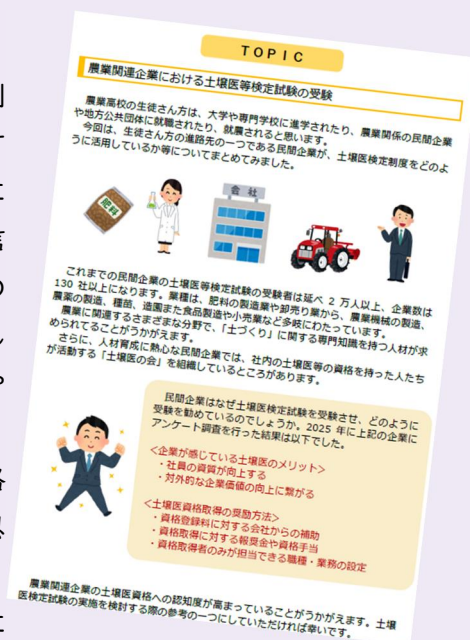
7. 事業体土壌医の会アンケート調査を活用しました！

日本土壌協会では、毎年、全国の農業高校（農業系専門学科設置高校）へ、2頁で紹介した三つ折りリーフレットとともに、高校向けに作成した「検定試験の案内」を同封して、受験を呼びかけています。

「検定試験の案内」では、前年の受験実績高校、農業高校生向けの団体受験割引制度、受験対策研修制度などの紹介、高校生受験者の声などを紹介していますが、それらに加えて今年の「検定試験の案内」には、全国協議会事務局が昨年度に事業体土壌医の会の協力を得て実施したアンケート結果（詳細は土壌医の会通信21号に掲載）を一部要約して紹介し、農業関連企業における土壌医等検定試験の受験動向とともに企業における土壌医資格の位置づけをトピックとして掲載しました。企業が対外的な企業価値の向上に繋がることなどにメリットを感じていることや資格取得者に対する奨励制度を設けていることなどを紹介しています。

これが受験動機となって少しでも資格取得者数が増えること、また土壌医等資格を取得して農業関連企業で活躍したいという生徒が出てくることを期待したいと思っています。

改めて昨年度アンケート調査にご協力いただいた事業体土壌医の会の皆さんに御礼申し上げます。ありがとうございました。



編集後記

関東地方ではわずかの期間、暑さの中休みがありましたが、8月の終わりから再び猛暑の日々が予想されています。子供のころは、どんなに暑くてもせいぜい32～33℃どまりで、夏の甲子園大会が終われば、そこそたく方の太陽の勢いに陰りが感じられはじめ、ああ今年の夏も過ぎていくなあと焦りに似た感傷を抱いた覚えがあります。当時、テレビニュースかなにかでインドのことが紹介され、世界はすごいな、人間の体温より高い気温の国があるのかなどとびっくりしつつ、正に他人事として感心していた記憶があります。

さて、人間だけでなく、この暑さは作物にとっても相当厳しい環境です。もちろん、直接的な対策にはなりませんが、土づくりを通じて土壌から受けるストレスを少しでも緩和することにより作物生育に貢献できるよう、皆さんの活躍を期待します。ご感想、ご寄稿等をお待ちしております。 e-mail@soil-doctor.net までお寄せ下さい。(N)